

「大草原からの贈り物～阿蘇山一周チャレンジキャンプ～」事業報告書

事業推進室長 小宮広明

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとした長距離ハイキング等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣を身につける。
- (2) 期 日 平成 29 年 8 月 16 日（水）～ 19 日（土） 【3泊4日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、阿蘇市、南阿蘇村、高森町
- (4) 参加者 25名（中学生：2年生1名、1年生4名 小学生：6年生9名、5年生11名）
- (5) 担当職員 小宮広明（事業推進室長） 三枝ひとみ（企画指導専門職）
安部信吾（企画指導専門職） 松元延行（事業推進係長）
萱野太一（事業推進係員） 野尻明美（事業支援室専門職員）
渡邊ゆかり（事務補佐員） 法人ボランティア3名
- (6) 講 師 堀尾緑氏（養護教諭） 枝尾幸子氏（看護師） 井野安子氏（看護師）
前田崇徳氏（活動・安全指導） 渡邊裕介氏（活動・安全指導）
- (7) 内 容 サイクリング、長距離ハイキング、野外調理、テント泊

2 成果と課題

(1) 成 果

- 参加者の感想には、「最後まで頑張れたのは仲間がいたからです。」「最後のゴールは、みんなで心を合わせてゴールできたのでとても心がすっきりしました。ここでできた思い出は一生忘れられません。」「1日目は、初めてテントを立てて寝るのが怖くて私は泣きました。長い間、家族と離れて心細かったけど家族の大切さが学べました。」など、4日間のキャンプを通して、はじめて出会ったなかまと生活する中で仲間の大切さや協力することの大切さを学んだり、参加者全員でゴールできた達成感を味わったりするなど、よい夏の思い出となったことがうかがえる感想が数多くあった。
- 全日程において、小学校養護教諭、または、看護師を帯同させたことで参加者も安心して4日間の活動を行うことができた。
- 学年を縦割りにして班編成を行ったことで、各班のまとまりも見られ、また、班長・副班長となった参加者の主体性やリーダーシップを育むことができた。

(2) 課 題

- 次年度より1泊ずつ増やし、最終的には1週間の長期キャンプにする計画のある事業である。そのため、次年度の事業について早めに安全面に配慮した行程の選定に取り掛かる必要がある。
- 今回、帯同看護師の確保とボランティアの確保に時間を要した。早めの働きかけを行い、できるだけ全日程継続して帯同できるスタッフの確保が必要である。

3 事業の様子



開会式



テント設営



カレーづくり



サイクリング出発



南阿蘇湧水群ハイキング



夜のふり返り



阿蘇山一周のゴール



集合写真